

= 概 要 =

昭和29年8月1日、町村合併促進法に基づいて、川西町・多田村・東谷村の一町二村が合併して市制を施行し、川西市が誕生しました。市制施行当時の人口は、33,741人でした。

昭和40年頃から市北部の多田、東谷地域の山間部に大手デベロッパーの大規模な宅地造成が進められて、現在人口は16万人を超えています。

平成10年にJR東西線が開通して、通勤時間帯の列車本数の増便により、大阪方面への通勤も一層便利になりました。

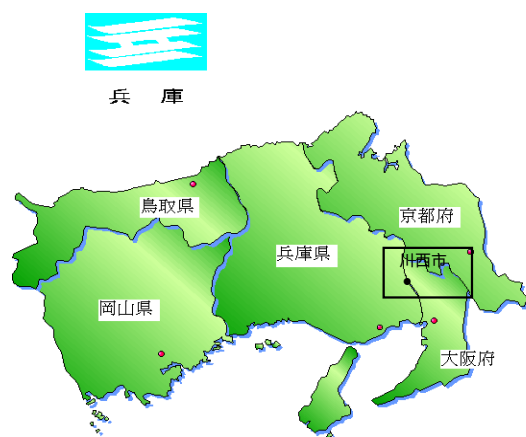
また、阪神高速池田線も延伸して川西市内に出入口が出来て、大阪市内へのアクセス、神戸方面への移動も便利になっています。

平成15年度からは、第4次総合計画で標榜する「わがまちと実感できる夢現都市」の実現に向け、とりくみが進められます。

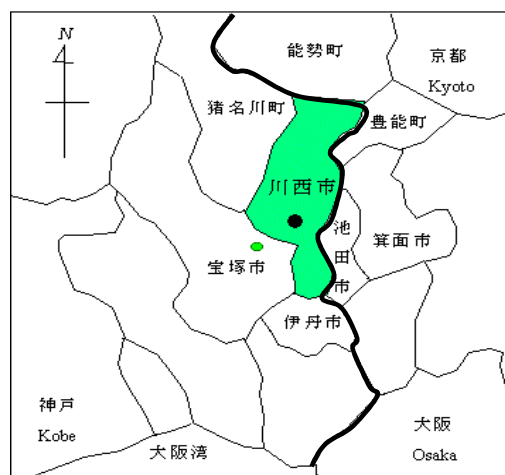
位置	東経	135°25'	海抜	最高	662m
	北緯	34°49'		最低	22m
面積	53.44km ²		広ぼう	東西	6.45km
				南北	15km

H22.3.31日現在

	人口(人)	世帯数
川 西	58,735	26,497
多 田	68,231	26,708
東 谷	34,410	13,385
計	161,376	66,590



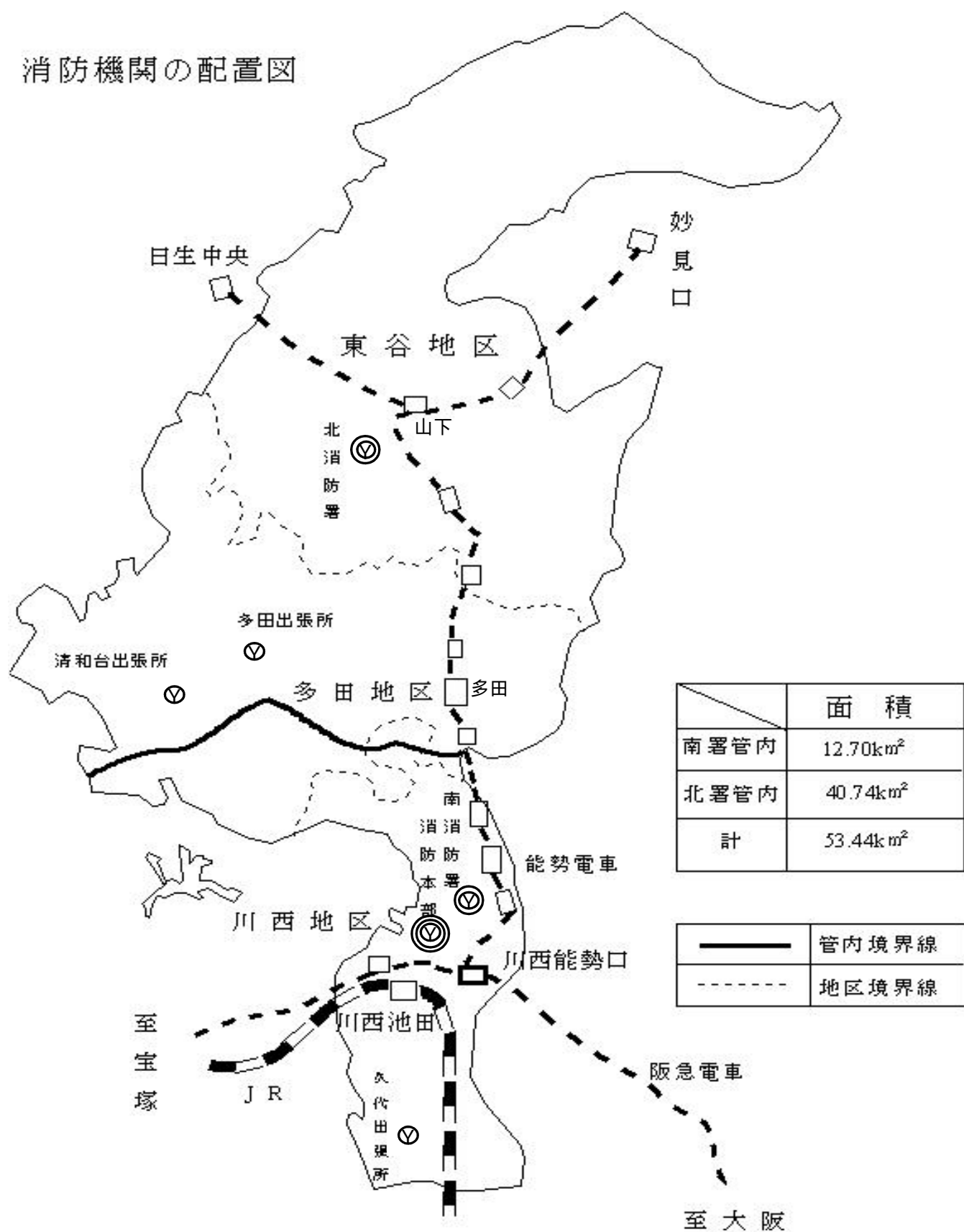
兵庫県



位置図 Area Map

兵庫県の東南部に位置し、東西に狭く、南北に細長い地形になっています。北部は山岳の起伏に富み、南部は平たんで市の中心市街地になっています。

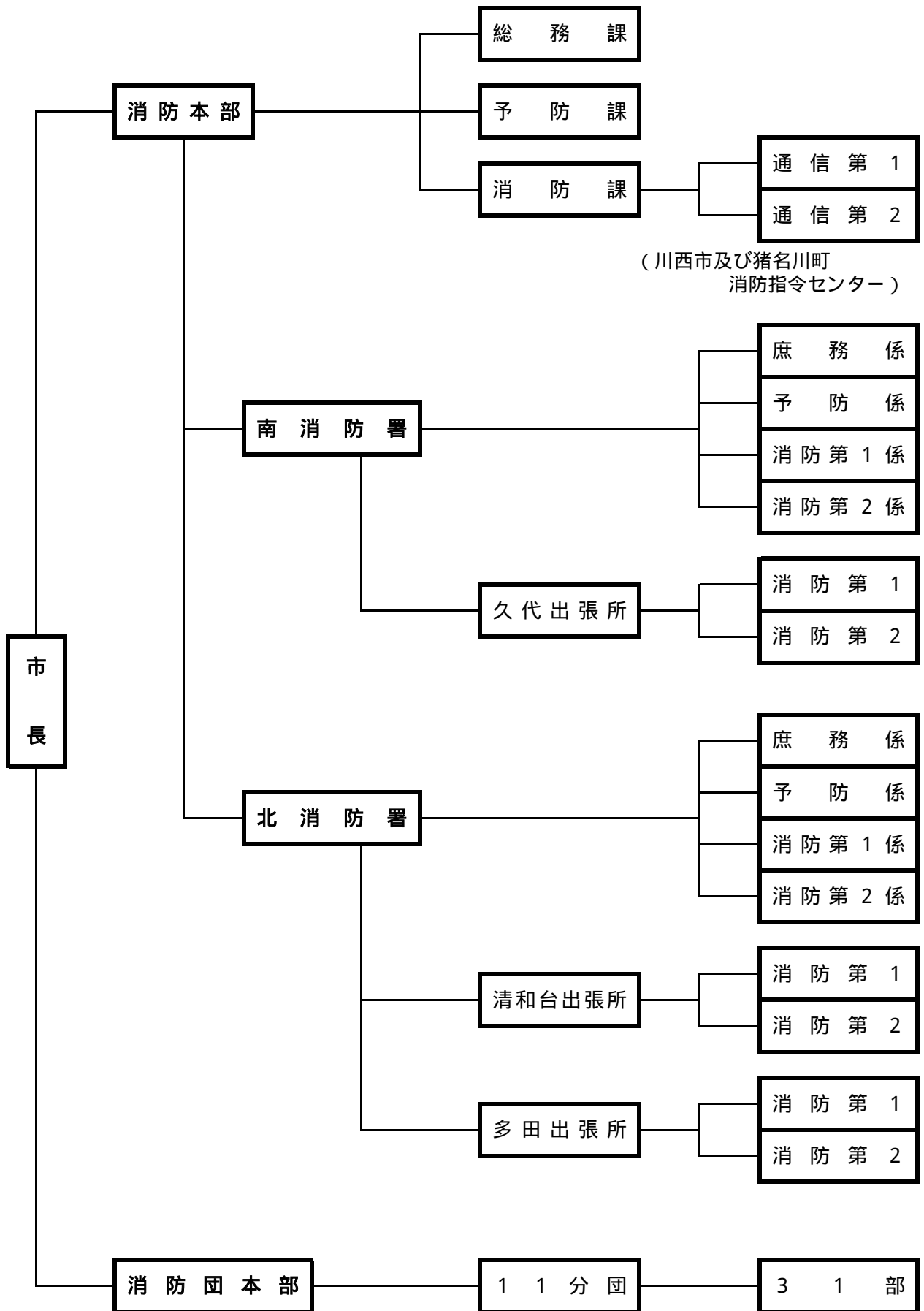
消防機関の配置図



消 防 庁 舎

所属	所在地	建築年月日	構 造	面 積 (㎡)		電 話
				敷 地	建物延	
消 防 本 部	川 西 市 火 打 一 丁 目 十二番十一号	昭和52年6月1日	鉄筋コンクリート造 3階建 (一部4階)	1,564. ⁷⁶	985. ⁸⁹	072-759-0119 総務課 757-9945 予防課 757-9946 消防課 759-9980
南 消 防 署	川 西 市 美 園 町 四番十号	昭和39年7月31日 (昭和44年3月 31日増築)	鉄筋コンクリート造 3階建 (一部鉄骨造)	541. ¹⁴	553. ⁸⁰	072-757-1194 予防係 759-9977
北 消 防 署	川 西 市 見 野 二 丁 目 二十一番十二号	昭和48年4月17日	鉄筋コンクリート造 2階建	2,846. ⁷⁷ (東谷行政 センター)	670. ⁷²	072-794-0119
久 代 出 張 所	川 西 市 久 代 三 丁 目 十六番二十六号	昭和47年1月21日 (昭和63年1月 21日増築)	鉄筋コンクリート造 2階建 (一部外壁コンクリートブ ロック)	678	277. ³² (59. ²)	072-756-0119
清 和 台 出 張 所	川 西 市 清 和 台 西 五 丁 目 二番地二	昭和49年10月17日	鉄筋コンクリート造 2階建	1,000. ³	494	072-799-0119
多 田 出 張 所	川 西 市 緑 台 六 丁 目 一番地	昭和51年4月14日	鉄筋コンクリート造 2階建	1,157. ⁷	524. ⁵²	072-792-0119

消 防 機 構



消防力の基準と現有

市町村が消防活動を行うために必要な最小限度の施設及び人員を定めた「消防力の基準（昭和36年消防庁告示第2号）」は数度の改正を経て現在に至っています。

基準消防力と現有消防力を比較すると、その充足率は、車両等においてはほぼ充足されているものの、人員において65.3%の充足率となっています。

消防団においては、団員数49.7%、消防ポンプ自動車50%、小型動力ポンプ100%の充足率となっています。

この消防力の基準も「消防力の整備指針」に名称変更され、次の基本的な方針に沿った見直しがなされました。

「消防力の整備指針」の理念の明記

地域の実情に合った考慮要素の導入、選択肢の拡充

求められる職務能力の明示

「兼務」概念の導入

施設の性能・効果を考慮した基準の導入

防災・危機管理に関する基準の導入

消防団員数の算定指標の設定

1. 常備消防力

H22.4.1日現在

区 分	基 準	現 有	不 足	充 足 率 (%)
署 所 の 数	5	5	0	100
消 防 自 動 車 の 数	消 防 ポ ン プ 自 動 車	8	0	100
	は し ご 自 動 車	1	1	50
	化 学 消 防 自 動 車	2	0	100
	救 助 工 作 車	2	0	100
	救 急 自 動 車	4	2	67
	特 殊 車 両 等	4	0	100
消 防 職 員 の 数	222 (条例定数:145)	145	77	65.3 - 100

2. 非常備消防力

H22.4.1日現在

区 分	基 準	現 有	不 足	充 足 率 (%)
消 防 ポ ン プ 自 動 車	4台	2台	2台	50
小 型 動 力 ポ ン プ	28口	28口	0口	100
団 員 の 数	768 (条例定数:418)	382	386 - 32	49.7 - 91.4

消 防 職 員

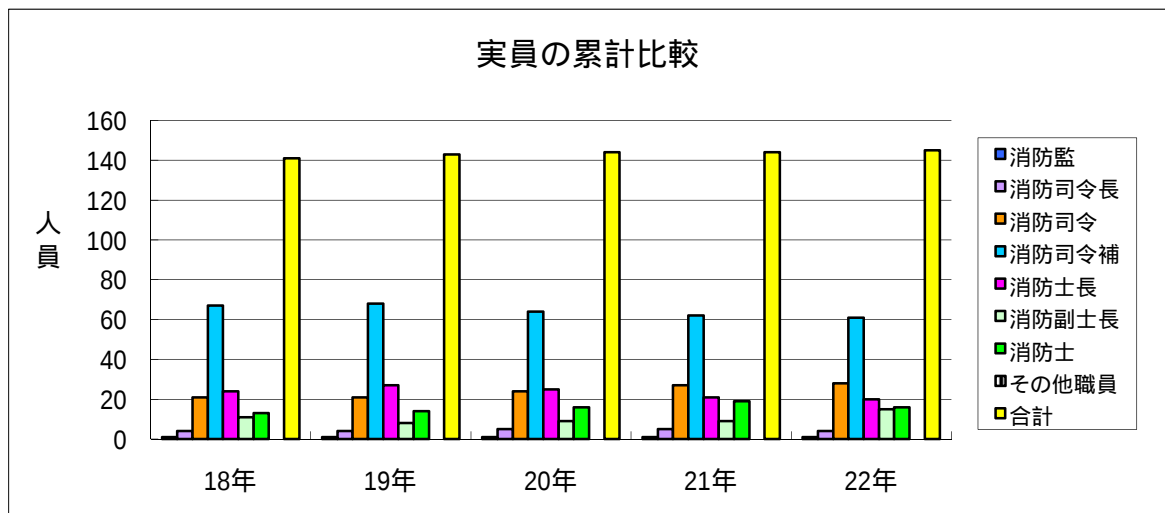
近年、川西能勢口駅周辺の高層化、幹線道路の整備が着実に進み、都市化の進展により災害が複雑多様化、大規模化する中、火災その他の災害から人命を守り、被害を軽減するため努力しています。さらに、救急に対する市民ニーズの高まりに加え高齢化社会の進展により、各種消防サービスの向上のため、145名の消防職員が日夜消防業務に励んでいます。その職員の構成等は次のようになっています。

１．定員、実員と累計比較

H22.4.1現在

年	人 口	条例定員	実 員								合 計
			消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	その他 職 員	
18年	160,707	145	1	4	21	67	24	11	13	-	141
19年	160,485	145	1	4	21	68	27	8	14	-	143
20年	160,823	145	1	5	24	64	25	9	16	-	144
21年	161,310	145	1	5	27	62	21	9	19	-	144
22年	161,406	145	1	4	28	61	20	15	16	-	145

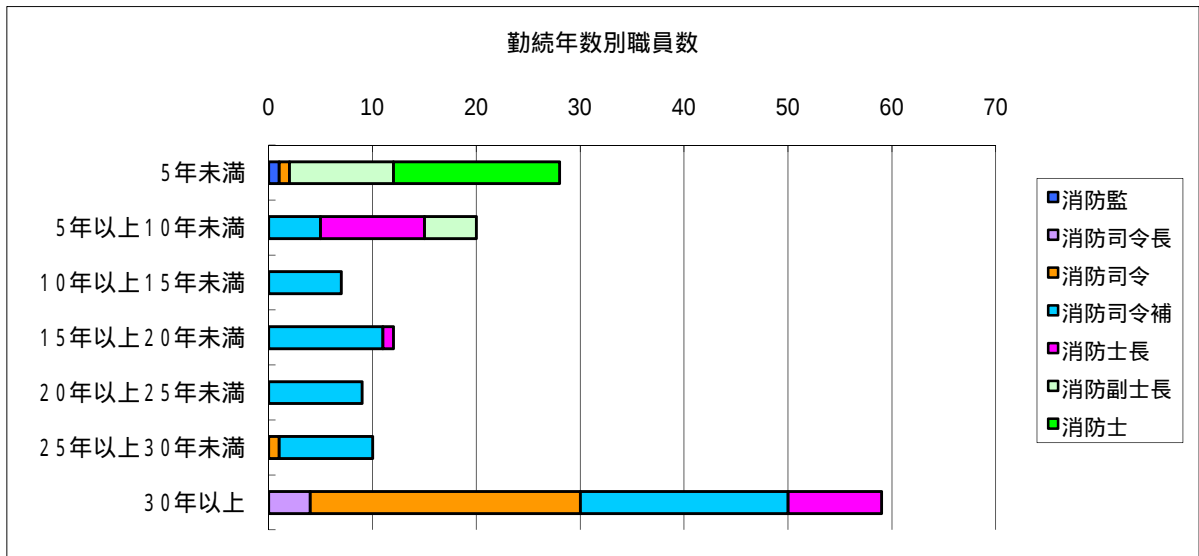
実員の累計比較



２．職員の勤続年数

H.22.4.1現在

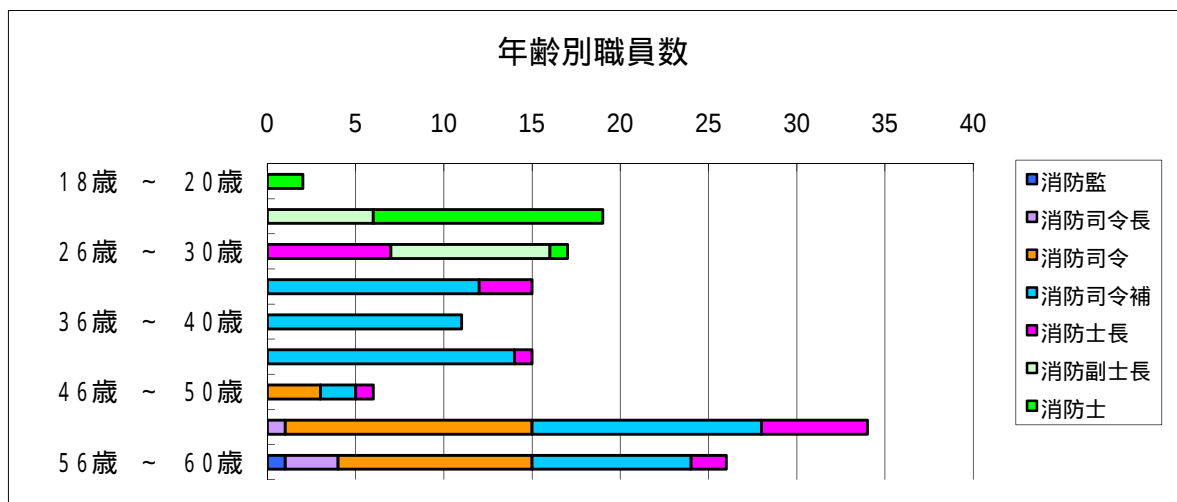
勤続年数 \ 階級別	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	その他 職 員	計
5 年未満	1		1			10	16		28
5 年以上 10 年未満				5	10	5			20
10 年以上 15 年未満				7					7
15 年以上 20 年未満				11	1				12
20 年以上 25 年未満				9					9
25 年以上 30 年未満			1	9					10
30 年以上		4	26	20	9				59
平均勤続年数	2.0	35.3	33.3	24.0	19.7	4.4	1.1	-	20.8



3. 職員の年齢

H22.4.1現在

年齢	階級別	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他職員	計
職員数		1	4	28	61	20	15	16		145
18歳～20歳								2		2
21歳～25歳							6	13		19
26歳～30歳						7	9	1		17
31歳～35歳					12	3				15
36歳～40歳					11					11
41歳～45歳					14	1				15
46歳～50歳				3	2	1				6
51歳～55歳			1	14	13	6				34
56歳～60歳		1	3	11	9	2				26
平均年齢		59.0	56.8	54.3	44.7	41.4	25.7	23.1	-	42.2



４．職員の配置状況

H22.4.1日現在

区分 所属	総数	勤務区分	消防監	消防司令長	消防司令		消防司令補		消防士長	消防副士長	消防士	その他の職員
			消防長	次長・参事・署長	課長・主幹・副署長	課長補佐・副主幹・所長	係長・主査・所長	主任				
総数	145		1	4	13	15	28	33	20	15	16	-
本 部	39		1	2	7	4	10	5	4	0	6	
消防長	1	日	1									
次長	1	日		1								
総務課	8	日		1	1	1	3	2				
予防課	5	日			2		1	1	1			
消防課	6	日			2	1	2		1			
	12	隔			2	2	4	2	2			
研修中	6	日									6	
南消防署	46			1	3	7	7	16	4	4	4	
本署	4	日		1	1	1	1					
	30	隔			2	4	4	10	2	4	4	
久代出張所	12	隔				2	2	6	2			
北消防署	60			1	3	4	11	12	12	11	6	
本署	4	日		1	1		1	1				
	22	隔			2	2	4	5	3	3	3	
清和台出張所	12	隔					2	2	4	3	1	
多田出張所	22	隔				2	4	4	5	5	2	

日：毎日勤務

隔：隔日勤務

５．職員の教育

(H21年度実績)

種 別	人数	期 間	講 習 機 関
初任科（第 7 4 期）	5	6 ヶ月間	兵庫県消防学校
専科教育 救急科	4	3 8 日間	〃
専科教育 救助科	1	2 0 日間	〃
専科教育 特殊災害科	1	1 0 日間	〃
専科教育 火災調査科	2	1 0 日間	〃
専科教育 予防査察科	1	1 0 日間	〃
特別教育 潜水科	1	5 日間	〃
特別教育 はしご自動車科	1	3 日間	〃
救助技術合同研修会	1	1 日間	〃
山岳救助技術及び 都市型ロープレスキュー研修	2	2 日間	〃
救急救命士追加講習	2	3 2 日間	兵庫県消防学校救急救命士養成所
救急救命士養成研修	1	7 ヶ月間	〃
新任主任研修	4	4 日間	川西市（総務部）
新任主査研修	8	3 日間	〃
新任課長補佐研修	7	4 日間	〃
新任課長研修	2	2 日間	〃
新任室長研修	2	2 日間	〃
インストラクション研修	2	2 日間	〃
消防長研修会	1	1 日間	全国消防長会近畿支部
総務関係実務研修会	2	1 日間	〃
火災調査研究会	5	1 日間	兵庫県下消防長会
消防実務講習会	14	1 日間	阪神地区消防長会
消防実務研修会	2	1 日間	西宮市消防局
火災原因調査特別研修会	4	1 日間	尼崎市消防局
火災科学セミナー	1	1 日間	日本火災学会
安全運転講習会	4	1 日間	兵庫県公安委員会
実務担当者研修	1	2 日間	兵庫県市町振興課
消防安全衛生研修会	2	2 日間	兵庫県企画県民部災害対策局消防課

6．表彰等の状況

区分 \ 年度	17	18	19	20	21
職員：消防庁長官 功労章	—	—	—	—	—
〃 永年勤続功労章	1	1	2	1	1
全国消防長会永年勤続章 20年	2	3	1	2	3
〃 25年	3	—	—	—	—
〃 30年	7	7	7	6	3
〃 35年	4	10	—	—	—
〃 40年	1	1	1	—	1
全国優良消防職員(全国消防協会)	—	—	1	—	—
兵庫県功労者	—	—	—	—	—
知事功労章	2	3	3	3	3
〃 永年勤続功労章	3	3	4	4	4
〃 家族の賞	—	3	3	—	3
〃 二代消防の賞	—	—	1	1	2
県医師会長表彰	—	—	—	—	—
市長永年勤続職員表彰	3	2	2	—	3
〃 消防功績章	1	1	1	1	2
消防長精勤章	3	3	3	2	4
消防長賞状(団体)	4	—	5	2	8
消防長賞状(個人)	—	—	—	—	—
防火安全協会長 優良消防職員	2	2	2	2	2
職員以外 感謝状(消防長)					
消火協力者	—	—	—	3	—
救助協力者	5	—	1	—	—
その他	—	—	—	1	—
消防長賞 防火ポスター	2	2	2	2	2

7. 消防職員の資格取得状況

H22.4.1.現在

種別 \ 階級別	総数	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
大型自動車運転免許（ ・ 種）	78		3	15	45	11	3	1
中型自動車運転免許（ ・ 種）	2					1	1	
普通自動車運転免許（ ・ 種）	144	1	4	27	61	20	15	16
救急 課程（標準課程・救急科含む）	115			17	58	18	13	9
救急救命士	33			8	19	1	4	1
応急手当指導員資格	136		3	27	61	20	15	10
J P T E C（B T L S含む）インストラクター	7				6	1		
I C L Sインストラクター	8			1	6	1		
陸上特殊無線技士	137		4	27	61	20	15	10
航空特殊無線技士	1				1			
小型車両建設機械運転免許	1			1				
小型船舶操縦士	28			4	17	7		
潜水士	47			4	31	8	4	
ガス溶接技能講習	32			3	26	2	1	
玉掛技能講習	31		1	8	17	4	1	
小型移動式クレーン技能講習	37		1	8	24	3	1	
足場組立等作業主任者	9		1	2	5	1		
有機溶剤作業主任者	4				3	1		
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	33		2	8	21	2		
特定化学物質及び四アルキル鉛等 作業主任者技能講習	10			7	3			
危険物取扱者（甲）	1			1				
危険物取扱者（乙）	50		2	11	16	8	10	3
危険物取扱者（丙）	40			6	30	4		
消防設備士（甲）	15		2	8	4	1		
消防設備士（乙）	26		2	6	15	3		
衛生管理者資格	5		2	1	2			
高圧電気工事士	1		1					
ボイラー技士	1			1				
高圧ガス製造保安責任者	2		1	1				
自動車整備士（3級）	3			1	2			

8 . 相互応援協定等の状況

	締結年月日	協 定 市 町	協 定 名	協定内容
1	44. 5. 1	池 田 市	消防相互応援協定	火災・救急
2	49. 2. 1	豊 中 市	消防特別相互応援協定	特定対象物の火災・救急
3	49. 2. 1	箕 面 市	消防特別相互応援協定	特定対象物の火災・救急
4	54. 6. 7	大阪府中国道沿線市 (大阪4 兵庫3)	中国縦貫道路茨木・宝塚インタ - チェンジ間における消防相互 応援に関する協定	中国道における 火災・救急
5	62. 8.12	大阪空港周辺14市 (大阪9 兵庫5)	大阪国際空港周辺都市航空機災 害応援協定	航空機災害
6	62.10. 1	能 勢 町	消防相互応援協定	火災・救急
7	62.10. 1	豊 能 町	消防相互応援協定	火災・救急
8	63. 7. 8	兵庫県中国道沿線市 12市	中国自動車道のうち兵庫県の区 域における消防相互応援協定	中国道における 火災・救急
9	H5. 5. 1	阪神7市1町	災害応急対策活動の相互応援に 関する協定	災害全般
10	H7.11. 1	兵庫県下市町	兵庫県広域消防相互応援協定	災害全般
11	H13.3.15	伊丹市・宝塚市 ・猪名川町	伊丹市・宝塚市・川西市 ・猪名川町消防相互応援協定	消火・救急・救助 ・その他

消 防 予 算

本市の一般会計は、前年度より 0.1% 増の 44,000,000 千円になっています。連年に渡る市債の償還が財政を圧迫する中、環境への配慮や教育、福祉施策への対応など、時代に応じた行政サービスを進めています。

各事業分野のうち、消防費は前年度より 0.4% 減の 1,574,194 千円を計上しています。

主な事業としては、県消防学校初任科 6 名の入校、老朽化した消防車両の整備として南消防署の水槽付消防ポンプ自動車 1 台及び第 2 分団小戸部の全自動型小型動力ポンプ付積載車、第 4 分団久代部の消防ポンプ自動車、第 10 分団黒川部の小型動力ポンプ付積載車の更新を行います。

1. 年度別市一般会計予算と消防予算（歳出）

区分 年度	一般会計予算額 (千円)	消防費予算額 (千円)	一般会計に 対する割合 (%)	一世帯当り 消防費(円)	住民一人当り 消防費(円)
18	42,830,000	1,725,102	4.03	27,227	10,734
19	42,744,000	1,740,277	4.07	27,157	10,844
20	42,847,000	1,591,483	3.71	24,516	9,896
21	43,972,000	1,579,818	3.6	23,964	9,794
22	44,000,000	1,574,194	3.6	23,640	9,795

2. 平成22年度消防費予算概要

(千円)

区 分	消防費予算額	地 方 債	国県支出金	一般財源	その他
消防費	1,574,194	53,500	10,826	1,476,501	33,367

3 . 平成22年度消防費節別内訳

(千円)

節 別 \ 目 別	0 1 常備消防費	0 2 非常備消防費	0 3 消防施設費	0 4 水 防 費	0 5 災害対策費	合 計
0 1 報 酬		31,633		6	27	31,666
0 2 給 与	573,100	4,761	4,430	4,300	11,580	598,171
0 3 職員手当等	470,929	3,732	3,924	5,902	10,057	494,544
0 4 共済費	183,400	1,545	1,443	1,399	3,735	191,522
0 5 災害補償費		1				1
0 7 賃 金						0
0 8 報償費	213	10,564			80	10,857
0 9 旅 費	2,257	189		5	54	2,505
1 0 交際費	40	135				175
1 1 需用費	47,396	4,566	4,672	373	2,948	59,955
1 2 役務費	14,028	200	33	796	45	15,102
1 3 委託料	33,558		2,606	4,569	900	41,633
1 4 使用料及び賃借料	16,265	20		201	120	16,606
1 5 工事請負費			3,688	1		3,689
1 6 原材料費	311	10	690			1,011
1 8 備品購入費	43,181	294	35,700		1,604	80,779
1 9 負担金、補助及び交付金	7,345	13,370	1,638		1,879	24,232
2 2 補償、補填及び賠償金		1				1
2 7 公課費	951	630	164			1,745
合 計	1,392,974	71,651	58,988	17,552	33,029	1,574,194